

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

1. 活動のテーマ

<テーマ>

製作

<テーマの設定理由>

日頃から、さまざまな素材を組み合わせて作ることを楽しむ姿がみられるので、製作意欲がさらに出てくるようにし、試行錯誤しながら作り上げる喜びを味わうことができるようにしたいと考えたから。

2. 活動スケジュール

<9～10月>個々にさまざまな廃材を組み合わせ、作る達成感を感じることができるように、製作ワゴンにさまざまな素材を集約し、手に取ることができるようにする。自分で手に取り、素材の組み合わせの良い・悪い素材を試すなかで探究していく。

<11～12月>クラスで共有のイメージをもって、みんなで作る楽しさを感じることができるように、ワゴンに引き続き廃材を集約していく。種類のちがうテープや空き箱も出していき、素材の組み合わせの答えを探していけるようにする。

<1～3月>製作活動への興味関心を高めるとともに子どもの新たな探究心を育むことができるように、これまでの経験を活かして自分のイメージのものを作るために必要なものを考え用意していく。使う道具の種類を増やして、適した素材は何かを試したり作るために必要な力加減を探っていけるようにする。

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり 等を記載ください。

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

・製作ワゴンを用いて、子どもの興味をもてるよう段階的に画用紙、折り紙などの紙類、セロハンテープ・ビニールテープ・ガムテープなどのテープ類、スズランテープ、空き箱、はさみ、ピンキングハサミなどの作る道具を出し、自分の作りたいと思ったものやクラスで考えたテーマのものを作った。

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、教諭との関わり等)

・テープを使って紙を貼り付けるために、同じ個所に重ねてテープを貼りながら時間をかけて一つのものを作っていた。テープを使うことを楽しんでいる段階から、気持ちが満足すると、貼り付けたいものに合う長さでテープを切ろうとするようになった。

・「やって」「どうやってやるの？」と保育者に求めてくるが多かった中で、保育者が「どうやって貼ったの？作ったの？」と友だちの作ったものを意識できるように声をかけていった。また、子どもがやってみたいという気持ちになるように保育者も同じ場面で作るようにしたことで、「どうやって作るの？」という声が出てきて、そこから友だちに教えようとする姿が見られていった。

・テーマとして、発表会の衣装作りをした。



4. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

製作ワゴンにある材料を使って、自由に作れる環境があることで、失敗という概念をもたずに自分のイメージを表現する楽しさを味わうことができていた。その友だちの姿を見て、自分も作ってみたいという好奇心、できたものを人に見てもらいたいという自信が芽生えていった。保護者にも過程を話すことで、園での成長や作品を子どもと同じ気持ちで大事にしようとしてくれていた。

引き続き、製作ワゴンを用いたコーナーを発展させていく中で、自分を表現しようとする意欲や自信につなげていきたい。